

いる すま Smile

囲碁を通して

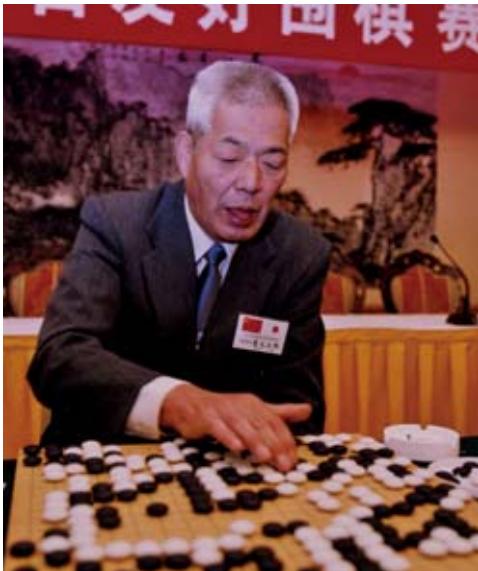
Vol.64

菊元 五郎さん
(川西在住)

岩国刑務所篤志面接委員。毎月、岩国刑務所を訪問し、受刑者に囲碁を教える。春の叙勲で公共的な業務に長年従事した人が対象となる瑞宝双光賞を受賞。



▼日中友好の親善対局(中国山東省)



30年以上篤志面接委員として、岩国刑務所で月1～2回、囲碁の教えを通して受刑者に情操教育を行っているのが菊元さんです。菊元さんが知人の推薦を受け、岩国刑務所の篤志面接委員を引き受けたのは34年前。途中、岩国刑務所が少年刑務所から女子刑務所となつたときには、女子に囲碁を指導することに最初は少

し戸惑いを感じたこともありました。受刑者には囲碁を通じて、作法・礼儀を重んじながら、集中力や忍耐力などを養い、相手がいるのだから自分の思うとおりにいかないこともあるということを個人の性格に合わせて指導をしてきたそうです。

何を聞いても全くものを言わず、何

を考えているか分からぬ受刑者が、突然、囲碁について質問してきて、その後徐々に話しきは、驚いた反面、進歩があつたとうれしい気持ちになつたこともありました。

菊元さんが囲碁を始めたのは、中学生の時。囲碁は自分の意思が通じず、相手がどう読んでいるのか分からぬ。また極めても極めても結論がでない世界に魅

力を感じ挑戦し続けました。40歳で中國素人本因坊戦で優勝。43歳の時には九州・沖縄地方、山口県のアマチュア囲碁棋士が熱戦を繰り広げる祐徳本因坊戦でも頂点に立ち、自分でもびっくりするほど負ける気が全くしなかつたと当時を振り返ります。

篤志面接委員以外にも、川西地区の

自治会連合会長、自治会長、消防団団長や民生委員なども長年引き受けたという菊元さんは「忙しい日々だったが人が好き。仲間と一緒にわいわいするのがいい」と話します。

80歳になつた菊元さんに、「元気の秘

訣やこれから目標を尋ねると「食べることが大好きです。囲碁は仲間作り

にもなるし、脳の活性化にもなりますから、これからも囲碁を指導しながら年を取つても自分らしく過ごせるようにしたいと思っています」と穏やかな笑顔を見せてくれました。



▲有段者のための講座の様子



▲子どもを指導する菊元さん(左)